

ピリピ 3

今日はピリピ3章です。さあ、神の言葉の旅と一緒に続けて行きましょう。

1章では、パウロが喜ぶことが出来る秘訣を見てきました。それは逆境にあっても敵意のある人々の中にあっても、キリストと御言葉の約束をしっかり握ることです。

2章においては、パウロの喜びが満たされるため、これらピリピの人々に対する秘訣を見てきました。それは、謙虚な行いと犠牲の奉仕によって、一致を保つこと。それは又キリストの模範に倣う事です。

さて、そのことを踏まえて、

始めましょう！

ピリピ 3:1 最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。:2 どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。3 神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

1900年代の初期、ビリー・サンディというアメリカの伝道者が、このように言っています。

「もし、喜びがないんだったら、あなたのキリストへの信仰は、どこか漏れているんだよ」
ビリー・サンディ

これらの初めの3つの聖句において、「喜びが漏れてしまう」のを防ぐ3つの方法が分かります。

1. 喜びは、守られなければならない。
2. 律法主義は、避けられなければならない。
3. 「私とは…」に気づかされなければならない。

では1番目から始めましょう。私たちは、喜びを奪うものからどのように守るべきでしょう。

1節の前半に、「最後に（もっと先も今も）私の兄弟たち、主にあって喜びなさい。」とあります。

皆さん、パウロは、こう言っていません「喜びなさい、それで終わり」あるいは「その状況にあって人々にあって喜びなさい」とも言いません。「主にあって喜びなさい」と言うのです。

喜びは、神との関係にある副産物なのです。

私たちは、大きな喜びについて、次の章でもっと話していきます。でも私は今、皆さんに、ご自分の霊的状态がどのようなかを深く考えてほしいと思います。次に挙げる事の心のチェックしてみてください。

1. 神は、私を愛してくださっていますか？確かめて！
2. 私は、神を愛していますか？確かめて！

3. 神のご計画に従って召された人々のためには、神が全てのことを働かせて益としてくださいますか？
(ローマ人への手紙8：28) 確かめて！

ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています

もし、全てを確かめられたら、漏れないように！それから主に在って喜んでください！

皆さん、私は人に「調子はどう？」と、このように尋ねられと、実はその質問が「霊的な状態を聞いているんだと、深く考え確かめるんです。

私はこう答えます。「私にはもったいないくらい元気です。」あれっ、ずいぶん変わった答えですね。

けれども、考えてみてください。私たちが受けるべき報いは何でしょうか。

ローマ 6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

イエス・キリストを信じる私たちは全員、もったいないくらい良くして頂いて元気なのではないでしょうか。

こう答えることで、自分の人生でどんなに良くないように見えることが起こったとしても、実は「もったいないくらい」よくしていただいていることを思い起こさせてくれるのです。もったいないくらい、元気なのです。

ですから、私たちクリスチャンの喜びは、「好都合な状況になったから」という結果ではありません。なぜかと言いますと、状況は、あまり良い結果とならない事がよくあるからです。

私たちクリスチャンの喜びは、「人生に関わる素晴らしい人々」から来るものではありません。なぜかと言いますと、彼らはそんなに素晴らしいとは言えないからです。

私たちの喜びは、生きておられる、愛してくださる、全能なる主なる神から生まれてくるものなのです。

前にお話ししたことがあります、私の主との関係は、アイスクリームサンデーのようです。

詩篇 34:8 【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。

私のカップは、完全に主によって満たされています。ちょうど、大好きなアイスクリームみたい。

アイスクリームの上に載っている他のものはみーんな「おまけ」。私のカップはてんこ盛りです。

私の人生に与えられるよい賜物は、ホイップクリーム。

子供たちは上に載っている、甘い小さなチョコレート。

もちろん、エイミーは、てっぺんに載せてあるサクランボ。

そして、皆さんは、周りに振りかけてある沢山のナッツです。(笑)(´▽`)冗談ですが。

「喜んでいる」それを、心に留めておいてください。主（単数）にあつて、どのように私たちは自分の喜びが漏れていくのを守る事ができるのでしょうか。

1. 喜びは、守られなければならない

2番目は、律法主義は避けられなければならない。

ピリピ3：2を読んでいきましょう。

ピリピ 3:2 どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。

これらは、さげすみと軽蔑の言い方で、この箇所は明らかに問題があることをほのめかしています

その問題というのは、霊的な腐った肉を食べる仲間のことを指します。彼らは、恵みの福音をがつつ食べ、恵みに向かい進もうとするクリスチャンを律法主義の中に引きずりこもうとするのです。

ユダヤの人々は、よく異邦人を「犬」と言っていました。

けれども、ここでパウロはユダヤの律法主義者、つまりユダヤ教主義者に、その用語「犬」を使って言い返しているのです。彼らは、異邦人のクリスチャンを、自分達の様にしています。

ユダヤ教主義者という言葉は、ギリシャ語の動詞 (ee-oo-dah-id'-zo)から来ており、「ユダヤ人の生活を強いる」という意味です。

この言葉は、ガラテア人への手紙2：14に載せられ、そこでパウロは、ペテロに説明しています。むりやり「ユダヤ人の生活を強えられる」異邦人クリスチャンのために如何に自分が立ち向かっていったかを。

ガラテヤ 2:14b どうして異邦人に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか。

ユダヤ教主義者は、こう教えました。神にあつて本当に正しいクリスチャンであるためには、モーセの律法と割礼に従わなければならない。特に救いに与るには欠かせないものだ。

使徒の働き 15:1 さて、ある人々がユダヤから下つて来て、兄弟たちに、「モーセの慣習に従つて割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていた。

さて、ここの箇所ではパウロは、「用心して！これらの律法主義者にあなたを、喜びを奪われないように！」と伝えます。

皆さん2節で、パウロは彼らを「割礼の者」とは呼ばず、むしろ「**肉体だけの割礼の者**」と呼びます。本当に激しい言葉、暴言です。

「でも、ジョセフ！当時はそうだったけど。でももうずっと昔の事。現在ではそのような人は周りにいないし、心配する必要もないでしょう。」

でも、聞いてください！このパウロからの警告は、今も昔も変わらないくらい妥当な事なんですよ。いつの世でもこんな人がいます。「神の前に、正しくあるために、ある儀式や規則を守らなければいけないんだよ」と主張する人が。

けれども、キリストが救いのために成してくださった御業に何かを加えるのは、神の恵みを無効にしています。

ガラテア人への手紙2：21で、パウロはこう語ります。

ガラテヤ 2:21 私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。」

ローマ人への手紙11：6では、パウロはこうも言っています。

ローマ 11:6 もし恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。

ですから、聖書ははっきり述べています。神の恵みに人間の行いを付け加える事は、正に恵みの意味がないがしろにします。それは、「受けるに値しない親切/好意」なのです。

もし、喜びが漏れて行かないようにしたければ

1、喜びは、守られなければ 2 律法主義は避けられなければ 3 「自分とは？」に気づかなければならないのです。

パウロが「肉体だけの割礼の者」に対比させて、語っているのを、見てください。

ピリピ 3:3 人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

ここで、文脈に照らし合わせますと、パウロがほのめかしている事は「私たちが、本物の割礼者」

では、それはどういう意味？パウロはここローマ人への手紙2：28 - 29でこう語ります。

ローマ 2:28-29 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません。29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

(そこには) 内面の現実/事実を証明している、外見上の儀式/しきたりというものがあります。

例えばちょうど、私の結婚指輪。それで、私が結婚している男であると分かります。

金額の価値からして、それほど値打ちのあるものじゃありませんが、UBIDのサイトで1500円ほどで買ったものです。

でも、それが代弁していることは、私のAmyへの愛とAmyの私に対する愛が、お金で買えないくらい大切な物であると語ります。

けれども、私が決して結婚しなかったとしたら？

誰もが、指輪をはめてもいいんですよ。誰でも「私はクリスチャンだよ」と言い、クリスチャンのふりをして、教会へ来て、讃美歌を歌い、聖餐に与り、洗礼を受け、伝道さえもして、多くの素晴らしい外見上の働きが出来るかもしれません。

しかし、それらの外見上の様々なるしは、内面にある実情を証明する必要があります。もしそうでなければ、私たちは、自分の偽の正体を持ち続ける事になるでしょう。私たちの信仰は、結婚していなくても結婚指輪をはめている人たちと何ら違いはありません。

それでは、キリストにある本当の信者として、自分の正体「私とは？」をどのように気付けばいいのでしょうか？

ピリピ3：3の後半にこうあります。

ピリピ 3:3 人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。(つまり本当の信者)

先ほど、私は、皆さんにご自分の霊的現実のチェックについて話しました。さて、この3：3の残りの節では、皆さんの霊的正体のチェックとなります。

本当の信者は...

3：3の前半です。

1 神の御霊によって礼拝をし、2 キリスト・イエスを誇り、3 人間的なものを頼みにしない
(私たちの方こそ割礼のものなのです。)

皆さん、律法主義者とカルトたちは皆、神の御霊により礼拝し、キリスト・イエスを誇るという事で、異議を唱えているのをご存知ですね。

けれども、真の信者、人間的なものを頼みにしないことに関して、彼らの考えはとんでもない考え方！彼らは人間的なもの、人間の達成を頼みとします。それが神にあって正しく立つことだと正当性を主張するのです。

パウロは、そうじゃありません。3：3で彼は本当の信者が「人間的なものを頼みにしない」と語ります。そして、この霊的正体のチェックは、パウロ本人の個人的な生き方を分かせてくれます。

ピリピ3：4 - 6に進みましょう

ピリピ 3:4 ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。

5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、

6 その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です

では、チェックリスト/目録について話しましょう！

パウロの血統と資格は、ユダヤ教に関する限り、申し分のないものでした。

と言うのは、このような経歴があれば、次の「大祭司」に選ばれる可能性もあったほどです。

そのことから、皆さんにお聞きしたいのですが、「私たちは何を誇ることが出来ますか？」「何を信賴していますか？」「神の御前に立って、自分を正当化するのにどんな達成をご自分の自信にしていращやいますか。」

でもそう、パウロは確かに自慢する事も出来たでしょう！パウロは、自分の人間的なものに頼んでも(自信を持っても)よかったでしょう。

でも...ピリピ3：7を読み進めましょう。

ピリピ 3:7 しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。

パウロは、自分の一生を霊的な宗教を再び続けていくのに費やしていたのです。そして4 - 6節にありますように、それらすべての誇りが、自分の柱（頼りとすること）であり得であったんだと、皆に聞いてもらってますね。

けれどもここで、パウロは気付いたんです。自分は間違っていたんだ！それらは、初めからずっと間違った柱だったんだと。自分で得であると思ったことは、損だったと分かります。

かつて、パウロが信じてきたこと全ては、得であると思ってきましたが、それは本当の真の神との関係から、彼を離れてしまっていたのです。それに気づいた彼は、以前、得だと頼りにした柱から、損とする柱に移ったのです。

ではピリピ3：8に進みます。

ピリピ 3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。

そうですね、ここで、パウロは更にもう一步踏み込んで、こう語ります。キリスト・イエスを主として知る事と比べて、いっさいの事、（色々な物、関係、健康、達成）は、全て損であり、それらは、ちりあくだと言うのです。元来のギリシア語で文字通りに言いますと、それは動物の糞尿だと書かれています。

そこで、パウロは、救いのためにキリスト御一人を信頼することに比べて、他の全ての人間的な達成は、悪臭がするもの、だから捨ててしまったよ。

そしてピリピ3：8の残りの部分と3：9の初めにはこうあります。

ピリピ3：8それは、私には、キリストを得、また、
3:9 キリストの中にある者と認められ、

「彼の中にある」とか、「キリストの中にある」とかいう言葉は、他の信仰の制度からみて、クリスチャンを独特のものにさせています。

そのほかの信仰の制度では、その創始者や信仰の神々、又は神に対して「～の中にある」と語られてはいません。

それでは、キリストの中にあるとは、どういう意味なのでしょう？

パウロは、こう語ります。

ピリピ3：9の続きです。

ピリピ 3:9 律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

他の全ての信仰の制度とは異なりますね。他の信仰制度は、霊的な義を獲得するために人間の達成に頼るものです。しかし、キリスト者は、ただキリストを信じる信仰によって、キリストの義を頂けるのです。

ここで、ピリピ3：10、11を見てみましょう。

ピリピ 3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの死と同じ状態になり、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、
11 どうかして、死者の中からの復活に達したいのです。

「またキリストの苦しみにあずかることも知って」とは、どういう事？私は、多くの人達が苦しむ思いをしたくない、問題のない人生を好まれる事を知っています。

けれども、少なくとも私にとって、自分のクリスチャン生活で最も苦しかった時が、最も親しい神との交わりの中にいる事が出来たと分かります。

1800年代のイギリスの詩人であり劇作家のロバート・ブラウニングは、喜びと悲しみについて、こう語りました。

私は、喜びと共に1マイル歩いた。
彼女は、ずっと話し続けてくれた
ところが、そこに 何一つ分からない私がいた

私は、悲しみの中で1マイル歩いた。
彼女は 一言もしゃべらない
ところが、そこに 彼女から悲しみを悟っている私がいた―― ロバート・ブラウニング

悲しみは、あなたの歩みの中にあるのです。けれども皆さん、イエスがその悲しみを通して、その痛みを通して、私たちが出会う患難と一緒に歩んでくださるのです。

詩篇 23:4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

それが、パウロが語っている「キリストの苦しみにあずかることも知って」という事です。そうすることで、更に良い結果となると分かります。

ピリピ12の前半に進みます。
ピリピ 3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。

ここで、私たちは、キリスト教においてイエスご自身以外の最も影響を与えた人の一人の告白が分かります。こう言っていますね。「私は、まだ行きついていないんだ。まだ得ていないし完全にされていないだよ。」

これは、誰一人として天国の側には、完全にたどり着かないよ」私に教えてくれています。

このことは、ピリピの1：6で、パウロが語った言葉を確認させるものです。

ピリピ 1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

そう、私たちは、完全じゃない、でも完全にさせてくださるのですね。

では、完全にさせてくださるまでのその間、パウロは、どうしていたのでしょうか？周りを見渡しながら、ただ座って神が完成してくださるのをじっと待っていましたか？

とんでもないですね！

ピリピ 3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

パウロは、追求し続けているのです！「捕らえよう」と望み続けています。これはギリシア語で、「手に入れる」「獲得する」「自分の物にする」「自分の中に入れる」などと言う意味です。

皆さん、主が私たちを捕らえて下さった時、主は、まさしく私たちに何をするようにと意図されているか、ご存じです。

エペソ 2:10 私たちは神の作品であって、(何を?) 良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

そう、パウロはこの真理が分かったのです。そして、12節にありますように「ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それ(良い働き、ご計画、目的、使命)を得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。」

既に私たちが1章2章で見てきましたように、
クリスチャン生活において、私たちは神が備えてくださった行いをするべきだ、ということです。

それは、「しなければならないから」ではなく(それは律法的)私たちが、喜んで、感謝して、褒めたて、尊んで、愛を持ってやりたいという望みからすることです。

私たちは、ただ捕らえようとして、追求し、神が備えてくださるものを捕らえる事です。なぜなら

① 私たちは、神を愛しているから ②そのことは、神に喜んでいただけるから

では、ピリピ3:13、14節に進みましょう。

ピリピ 3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

皆さん、私はちょうどこの長居公園の通りの直ぐ向かい側に住んでいます。公園では、人々がいつでも走っています。走りながら、後ろを振り返っている人などいません。そんなことをすると、逆効果だし、愚かだし、危険とさえ言えます。

同じように、皆さんが自分の人生で、つまずき続けたくなければ、肩越しに後ろを振り返ってばかりして、後悔しながら生きないで。「自分の人生はどうだったんだ、どうすることが出来たんだ、どうすべきだったんだ」などと悔いてばかりいないでください。

皆さん過去には、山ほどのつまずきの石があったことでしょう。これからの人生にもありますよ。でも、私は後ろを振り返ることが、自分自身の目的の助けでなければ、又は他の人の背中を押してあげる事でなければ、振り返ろうとは思いません。

私たちが過去に犯してしまった罪は、私たちを激しくとがめ、無気力の状態にまでさせます。それにまた、神の恵みによって、成してくださった素晴らしいことが、私たちにプライドを持たせます。

そこで、私たちもパウロの様に、こう言えるところにたどり着く必要があるのです。「そのことで、クヨクヨしないよ。そんなことで、つまずいたりはしない。それで、栄光を得ようとも思わない。全ては終わってしまったこと。ただひたむきに前に向かって走っていくんだ。」

ピリピ 3:15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。17 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

ここは、面白いですね！つまるところ、15節でパウロはこう言っているんです。「もし、あなたが霊的に成熟したクリスチャンなら、私が言おうとする事が分かり賛成するでしょう。でも分からなければ、あなたは、主にあって最終的には成熟し、間違った考え方をしていると主が明らかにしてくださいよ。」と言うのです

でも、パウロはここで傲慢になっているのではありません。なぜかと言いますと、パウロはこう言い終わったばかりであることを思い出してください「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。」(12節)「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。」と、語っているからです。(13節)

皆さん、この教会を建て上げられたのは、パウロを通してでした。ですからパウロは、ここの信者たちの世話をし、信仰において霊的な父となっているのです。

皆さん、ここでパウロは、違う考えを持つ人に対し、誰をも排斥していたのではないことに気づいてください。。むしろ、基本的には「お互い意見が違うという事でいいじゃないか。お互い同意する程度まで歩み寄って進んでいこう。」と言って、その人たちも仲間に入れていました。

ところが、17節を見てください。大切な所です。パウロは、違う意見を持つ人々が何を言おうと、信じようと信じまいと、その手本に従う気などさらさらなかったと分かります。

しかし、17節にあるようにパウロは、違う意見を持つ人々を兄弟たちとして招待しています。「17 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、(テモテ、エパフロデト[2章] 長老、執事[1章]) 目を留めてください。

18a For many walk, of whom I have told you often, and now tell you even weeping,
ピリピ 3:18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、

パウロは、ローマで囚人だったから、涙を流していたのですか？いいえ！

ローマの看守にパウロを鎖でつなぐれ、臭いから、涙を流していたのでしょうか？いいえ！

パウロは、彼を待ち受けているものが、死刑執行かもしれないから涙を流していたのですか？いいえ！

3：18後半です。次の事でパウロは涙していたのです。

多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

ピリピ3：19を読みましょう。

ピリピ 3:19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

これらの敵とは、誰だったんでしょうか？はつきりと分かりませんね。

けれども、かれらが、「思いを地上のことだけに向けている者」だと分かります。

1. 彼らの「最後は滅び」で、永遠の救いとは逆のものです。
2. 彼らの神は彼らの欲望、「多くの人々」の肉体的な欲望について語っています。
3. 彼らの栄光は彼ら自身の恥です。彼らがプライドとしていることは、まさに「不名誉」や「屈辱」をもたらすものであり、恥ずべきことなのです。

十字架の敵である地上だけにのみ、思いを持つ人々と比較対照して、パウロは涙をもって警告しているのです。

では、最後の節ピリピ3：20、21を見ましょう。

ピリピ 3:20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。**21** キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

私たちはこの世にいますが、この世に属する者ではないことを、クリスチャンとして覚えておく必要があります。

私たちの最終の国籍は天国ですね！それって素晴らしい不是吗？

では、もし私たちの国籍が天にあるなら、それはどうやって分かるのでしょうか？

さて、まず初めに、言うまでもなく19節に挙げられているどの特性も、共有すべきではありません。それは、キリストの十字架の敵を述べているからです。

ある人が天に国籍があるかどうか、分かる別の方法として、20節にも書かれています。もしその人が来たるべき天の御国を熱心に待ち望んでいれば、天の御国の市民です。

そこで「クリスチャンはなぜ、そんなに天国に関心があるのだろう」と思う人がいるかもしれません。

それは、まず初めに、私たちの愛する主、救い主がそこに住んでいらっしゃるからです。

彼は、そこから戻ってこられます。

彼は、私たちをそこに連れて行ってくださいます。

私たちより先に亡くなった仲間の信者たちが、もうすでにそこに居るのです。

そこでは、悲しみも、痛みも、苦しみや死も、決してありません。

私たちの相続とご褒美が、そこに備えられているのです。

私たちの卑しい体は、そこで変えられます。ひょっとすると、私の髪の毛もそこではふさふさになるかもしれませんよ。

そこを楽しみにしないでいられるでしょうか。当たり前の事でしょう？

でも、あなたの国籍が天にあるって、確かですか？

かつて、ジョン・ダイアーという神学者が、それをこのように表しました。

「男が 健康を損ね、天国へ行くかもしれない

男は 富もなく、名誉もなく、学識もなく、友だちもなく天国へ行くかもしれない。

でも、キリストなしで決して天国へ行くことは出来ないのだ。」 ジョン・ダイアー